

知的書評合戦 ビブリオバトルIN塩山^③

令和5年9月24日(日) 17:15~開催報告

第32回大会

テーマ: 『なく』

『おいしくて泣くとき』

森沢 明夫／著、角川春樹事務所

貧困の子どもたちに無料で食事を提供する「大衆食堂かざま」が舞台。幼い時に病気で母を亡くしその食堂を営む父と暮らす中学生の心也と食堂に通っている幼馴染の夕花を中心に物語は進んでいく。貧困、暴力、病など、子どもたちは自分ではどうすることもできない現実を乗り越えていけるのか…果たしてその結末は子どもの貧困をなくしたいという「無く」とタイトルにある「泣く」からこの本を紹介してくれました。



『虎と月』

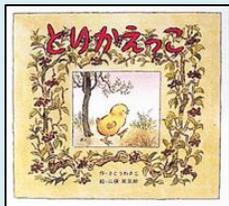
柳 広司／著 理論社

作者の柳さんは「山月記」の著者中島敦さんをリスペクトし山月記はそらで朗読できるほどというバトルの語りから始まり「山月記」をオマージュし大きく変貌させたお話となっている小説。「父さんのように僕も虎になるのだろうか?その真相を解明すべく主人公の僕は父を辿る旅にでた、さてその行方は… この本の「なく」は物語の最期に解き明かされる漢詩の謎1字違うだけで詩の内容は全く変わってしまう。内容はネタバレになるので伏せますが…虎が吠える…虎が啼くの「なく」でしょうか…

『とりかえっこ』

さとう わきこ／作、ポプラ社

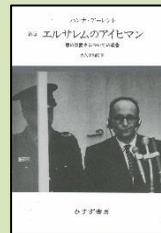
意表を突かれました。バトルは長野県にある作者の記念館の近くの出身で小さい頃に読み聞かせをしてもらったり自分でもよく読んでいた本だったとのこと。この本の楽しみ方が3つあると何度もアピールしてくれました。特にイラストの右下の…が印象的でした。この本の「なく」主人公?はひよこ「とりかえっこ」って何を取り換えるのそれは「鳴き声」でした。(ネタバレ!?)また本を読むのが苦手…と語っていましたが、普段本を読んでいる人とお見受けいたしました。



『エルサレムのアイヒマン』

悪の陳腐さにゆいての報告

ハンナ・アーレント／著 みすず書房
アイヒマンという人物をご存知ですか?アウシュビッツ強制収容所へのユダヤ人大量移送に関わった人です。著者が公開裁判を欠かさず傍聴しアイヒマンの死刑が執行されるまでを記した記録本です。銃も撃てない普通の人であったのに大量虐殺に加担したのは…?自ら考えることなく「ただ命令に従ったから…」自ら調べないで、考え「無く」して行動する悪の陳腐さについて観戦者に訴える熱い思いが沢山の付箋紙のついた本からうかがえました。



《塩山図書館で展示しています。展示棚にない場合は予約ができます。》



★第32回大会★
チャンプ本

『虎と月』 柳 広司／著 理論社

《参加者のみなさんの感想》

- * 「山月記」原作を読んでみたくなりました。多数
- * 机の下の漢詩を見つけてからどうなったのかが気になりました・
- * 親子のかかわりとエピソードがおもしろそうでした。
- * 山月記の硬派な印象をミステリー仕立てオマージュにギャップがあっておもしろそうですね。
- * 息子の心中(揺れ動く気持ち)がおもしろそうですね。
- * 僕の続きがどうなるのか気になる発表でした。
- * 僕の父の正体はどんな「虎」なのかを巡るサスペンスな話の展開が気になります。



★参加者のみなさんよりイベントの感想★

- ・ 中高生に発表する機会があると良い。もっと頻繁に実施して欲しい。
- ・ バトラーさんたちが皆場に慣れていて素晴らしいと思った。
- ・ 「なく」というテーマに全て違う意味の「なく」が紹介されていてとても楽しかったです。
- ・ テーマが難しそうだと思ったが様々なジャンルの本が紹介されていて面白かった。
- ・ いろいろなジャンルの本でおもしろかった。
- ・ 普段自分の興味から外れてなかなか読まないジャンルの本「子供向けの本」「大人向けすぎるかな」と思ってしまうような本が紹介で一気に読みたくなる。そんな素敵な機会をいただきました。次回も楽しみにしています。
- ・ 初めてビブリアバトルに参加しました。とても勉強になりました。
- ・ もっとたくさんの方が発表を見に来てくれたらいいのにとおもいます。

次回《第33回大会のご案内》★テーマ「おし 推し・押し・惜し・忍・押し御師」

(発表者募集中！塩山図書館まで)

令和6年2月4日(日) 午後5時15分から 塩山図書館 閲覧席にて

▲観覧者→当日時間までにお集まりください。▽当日の閲覧席利用は16:45までです